

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月26日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0770402402		
法人名	有限会社 いわき清風園		
事業所名	グループホーム いわき清風苑		
所在地	福島県いわき市東田町2丁目12番地の2 (電話)0246-77-1515		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮111番地		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	平成20年3月27日

### 【情報提供票より】(2008年1月16日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤18人, 非常勤	人, 常勤換算16.7 人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

#### (4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	4 名	要介護2	4 名			
要介護3	6 名	要介護4	4 名			
要介護5	要支援2					
年齢	平均	89.3 歳	最低	79 歳	最高	100 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢吹病院、いがり歯科医院
---------	--------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員は、全員で協議して作り上げた理念を良く理解して利用者の支援に当たっており、利用者への支援のあり方や方法をそれぞれの利用者について共有して実践している。建物及び敷地についても広々としており、隣接して公園や商店があるなど、利用者には恵まれた環境、設備が整っている。協力病院も近くにあり、往診や訪問看護など対応してくれており、医療的にも恵まれているといえる。経営者の高齢者福祉についての理解により、ホームの設備面はもとより職員の待遇面も充実しており、職員は安心して仕事に従事できる環境が整っている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題について、区長を通じた地域行事への参加による広報活動や入居時に馴染みの私物の持込むように働きかけている。また、利用者の役割作りのための備品の提供や介護計画の家族への説明及び意見の聴取等の改善を行っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で評価事業について勉強し、各自、自己評価を実施したものを管理者とリーダーがまとめた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)</p> <p>利用者家族代表、地域代表、行政、事業所代表などをメンバーとして、2カ月に1回運営推進会議を開催している。主にホームの行事などの報告及び緊急時の体制についてなど利用者のサービスにかかわる事や地域住民との係わりについて話し合い、サービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>「受診、往診ノートでの伝達」「毎月一回のホーム新聞発行」「月次報告書による利用者家族への定期的な報告」「緊急時連絡の実施」を行い、家族に安心感を持って頂く様にしている。又、家族会の際に家族だけで話し合いを持ち、その結果を職員や管理者に伝えていただき、全職員にて対応や改善を検討するなどしているほか、日頃から家族が意見や苦情を言いやすい雰囲気や心をかけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議のメンバーである区長との話し合いにより、隣接する公園の草むしりを行っている。また、ホームで行うクリスマス会や夏祭りへの地域住民の参加を呼びかけ、参加された方との交流するなど地域住民との交流に取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく生活するための基本となる支援を実践するために「相互敬愛」「哀歓共有」という理念を職員全員で協議し作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、申し送り時に音読し、理念をたえず心に置き利用者支援に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議のメンバーである区長との話し合いにより、隣接する公園の草むしりを行っている。また、ホームで行うクリスマス会や夏祭りへの地域住民の参加を呼びかけ、参加された方との交流するなど地域住民との交流に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で評価事業について勉強し、各自、自己評価を実施したものを管理者とリーダーがまとめた。前回評価での改善課題については、利用者の役割り作りのための備品の提供や介護計画の家族への説明及び意見の聴取等の改善を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者家族代表、地域代表、行政などをメンバーとして、2カ月に1回運営推進会議を開催している。主にホームの行事などの報告及び緊急時の体制についてなど利用者のサービスにかかわる事や地域住民との係わりについて話し合い、サービス向上に活かしている。</p>		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>「医療機関の受診、往診ノートでの伝達」「毎月1回のホーム新聞発行」「月次報告書」により家族等への定期的な報告を実施すると共に「緊急時の連絡」を実施している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の際に、家族だけで意見交換できる場を設け、その結果を職員や管理者に伝えていただき全職員で検討している。また、常日頃家族が意見や苦情を言いやすい雰囲気を作っている等工夫し、それらを運営に反映できるようにしている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニットのため、職員が両ユニットのことが分かるように、半年に1度最小限での職員異動を実施し、実際の異動がある場合の利用者へのダメージが少なくなるよう努めると共に、出来るだけ職員の離職が無いよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の職員と管理者とを別にした年間の研修計画があり、職員の経験などを考慮して参加させている。研修受講後はケア会議などで職員へ報告している。しかし、研修結果の記録は無く、研修にて配布される資料等のみ残っている。		外部研修の内容をきちんと記録、内部研修等に活用するよう検討してほしい。又、職員の専門性及び仕事に対する意欲向上を図るため外部研修の職員周知及び参加申し出が出来る様検討してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市域及び県域のグループホーム連絡協議会に加入すると共に、勿来地区の地域福祉ネットワークに参加して積極的に活動しており、それらの活動を通じて利用者に対するサービスの向上を図る取り組みをしている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活のほとんどに支援の必要な方からは、職員の仕事に対して感謝や励ましの言葉がかけられている。また、比較的自立度が高い利用者には、その能力、生活歴による得意な事を考慮して洗濯干し等生活上の仕事を職員と一緒にしており、その際には職員が感謝の言葉を述べる様にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者自身が行いたいことの支援を行うようにしている。馴染みの床屋へ行く場合に利用者だけで行くのが困難なときは職員が支援を行っている。また、職員は常に利用者とは話し合い、利用者の意向等の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からは、面会時等に意見や希望を聞き、介護計画に反映している。また、サービス提供記録等を参考にし、関係職員と協議して介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化があった際には家族に意見や希望を聞き、現状に即した介護計画の変更を行うと共に、毎月のケア会議にて全利用者のモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行い、作成した介護計画を家族に説明している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの近隣の協力医を受診する利用者が多いが、以前からの主治医への受診継続を希望する利用者については、家族と共に受診できるように支援している。又、入居前からの主治医がホームへ診療に来る利用者もあり、柔軟に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化については早いうちから家族と相談し、介護計画にて職員も共有している。又、終末期のケアについては、主治医及び家族の意見を聞くとともに誓約書を交わし、方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報取り扱いについての重要性を職員に徹底させ、記録の方法を統一するなどして取り組んでいる。また、利用者の人格を尊重した支援が出来るように職員に会議などを通じて話している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、嫌がる時には無理強いしない等、職員全体で認識を一つにして対応するようにしている。又、利用者との会話を通じて日々の希望を把握するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、前日に利用者と職員が相談しながら立てており、午後から買い物に行くようにして家庭的になるよう配慮をしている。又、食事の準備や後片付けが出来る利用者には手伝ってもらおう等、利用者の楽しみとなる様配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴に対する好みを考慮し、入浴の回数や時間帯等に配慮している。又、無理強いする事が無いよう配慮して、利用者が入りたいときに合わせて入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	ホームでの生活の中で、役割りを持っている、あるいは役割りを持つ事を希望する利用者が多い。やり甲斐や楽しみの助長の観点を介護計画にも取り入れており、最近では隣接する公園のゴミ拾いなど地域の中での役割りとしての楽しみを持つ利用者も出てきている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	花見などの計画的な外出の他に、調理のための買い物や公園の散歩などを日常的に行っている。又、他の外出希望についても職員あるいは家族が対応できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員及び管理者は鍵をかけないケアの重要性を理解しており実践している。尚、当初は玄関に設置したセンサーを使用していたが、現在は職員が目配り等によりセンサーに頼らないケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した内容を含めて、年間2回の避難訓練を行うと共に、職員の緊急時連絡網を作っている。また、非常災害時に近隣の住民の協力が得られるようあいさつをしたり、近所の商店で買い物をするようにしている。		さらに地域の協力を得るために地域消防団及び自治会等と協力関係を結ぶなどの対応を検討してほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに水分及び食事摂取量のチェックを行い、摂取が少ない場合には、必要に応じて栄養補助食品の使用も行っている。又、利用者ごとの食事摂取量、早さを考慮して支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は広く清潔で、食事時には静かな音楽が流れるなど、利用者が快適に過ごせるよう配慮している。又、季節感が出るよう雛人形を飾っている他、外出時の写真を飾り、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の整理ダンスとベッドはホームにて準備しており、それ以外は本人及び家族と相談して、使い慣れた物、好きな物を持ち込んでいただけるようにしている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム いわき清風苑  
記入担当者名 今野 ゆう子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

**評価結果に対する「事業所の意見」の記入について**

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。